河北省との交流深めよう

25年の友好は大きな財産

一般質問では、河北省との交流を進めることも質問しました。鳥取県と河北省は昨年、友好提携25年を迎えましたし、今年は日中国交回復40周年です。ところが、両省県間の農業研修生や農業研究者の交換は２００３年を最後に途絶えており、昨年10月、鳥取県議会河北省訪問団として訪問した私たちに河北省農林科学院の研究者の皆さんをはじめ、多くの人たちが交流再開を求められたからです。一般質問での知事とのやり取りのいくつかをご紹介します。

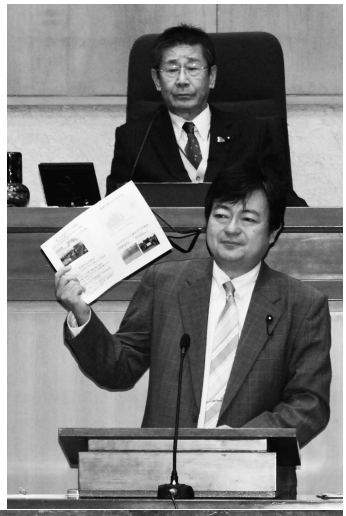
（質問）交流深化の提案にどう応えますか

知事・県議団との会見で、河北省の張・代省長は①ハイレベルでの相互訪問の継続②成果を出している経済、農林、教育、環境の分野での交流の発展③チャーター便の運行など観光の交流の推進を提案され、知事も「３つの提案には大賛成。ぜひともこれから両省県の政府同士で話し合いを進めたい」と応じられたが、今後、河北省との交流はどうされていくのか。

（知事）環境産業フェアで来県の機会つくる

張代省長は省長就任が確実。マンガサミットにお越しいただけないかと申し上げたところ、代表団の派遣を約束いただいた。我々も調整をしていきたい。

河北省は先進的な環境都市のモデルケースを建設されている。鳥取県でも環境産業フェアを開催し、商談会も開いているので、そういうタイミングで河北省の経済関係者に御来県をいただくなど、マッチングの機会をどうやってつくればいいか検討をしてみようと話をしている。



パワーポイントで作成した資料を手に質問しました。県議会のＩＴ問題は３頁の「県議会余話」で詳述しています

友好提携25周年記念鳥取県文化財写真展のオープニング式典で、喝采を浴びた八頭高校書道部のパフォーマンス。若者の交流が両省県の新しい未来を拓く＝河北省博物館で

（質問）農業分野の人的交流再開を強く求めたい

農業分野の人的交流は友好提携直後の１９８７年に始まり、研修生77人、研究生26人を受け入れ、研修者23人を派遣している。中国に行って驚いたが、研修生や研究員が農林政策の中央に座っていて、異口同音に「我々の友情は変わりません」と繰り返された。

68の種や系統の果実を鳥取に導入したが高湿多雨のため、病害虫が出て成果が出なかった。化学農薬や化学肥料を使わない農業などの共同研究も成果が出なかったうえに、研修生も学習より経済的理由が強くなるなどしたため、中止されたと聞いた。しかし、廊坊市ではＮＰＯのサカズキネットが植林をされている。

河北省の人口は７１８５万人、ＧＤＰは24兆円にもなる。国家間では、次官級の定期対話や農業地域開発計画、審議官級の日中農業科学技術グループ会議も続いている。鳥取県でも同会議のような交流を考えたらどうか。林業局で鳥取産木材の輸出を提案した時、１立法メートル約80円と言われて可能性はないと思ったが、議論するうち、高級家具用の松材なら１万２千円で売れると聞いて驚いた。やはり、交流して話し合うことが大切ではないか。

（知事）今後の交流事業虚心坦懐に話す

鳥取から河北省のほうにいろいろな技術支援をしたが、やはり日本と中国では農業とスタイルが大分違い、うまくマッチできそうでいて、なかなか接点を見つけにくかったのが農業交流の実情であったと思う。しかし、これから河北省と今後の交流事業について話し合いを始めることにしており、議員の提案でもあるので、虚心坦懐に話をしてみたい。

（質問）石荘家・上海便を春秋航空に提案を

春秋航空は上海―石家荘便を運行しており、ドル箱航空路だという。上海―鳥取、鳥取―石家荘便みたいな三角航空路ができれば魅力的だ。「チャーター便による観光交流に政府として支援したい」との代省長の発言もあったので、春秋航空に提案してはどうか。

（知事）ハードルは高いが挑戦していきたい

春秋航空チャーター便の誘致を始めたところだ。春秋航空は石家荘と上海がキーステーション。春秋航空と交渉していると代省長に申し上げたら、石家荘の空港をリニューアルされていることもあって、大変な興味を示された。

ただ、春秋航空に話をぶつけたとき、石家荘便は成田など主要空港を念頭に置いているというような発言があり、ハードルは高いかもしれない。だが、石家荘市は９００万人規模の大変に大きな人口圏。春秋航空との交渉の中で石家荘便の構想は当然ながら含めて議論をしていく。当面、上海便が順番に日本の地方路線を狙っているので、それが重点だが、今後の展開の中で頭に入れて臨みたい。